

インフルエンザワクチンQ&A

Q ワクチンの効果は？

発症を減らし、かかった場合の重症化を防ぐために接種します。

日本国内の研究では、15～49歳で外来受診を伴う発症を約61%、65歳以上で発症を53%減らしました。高齢者では、発症後の重症化や死亡も少なかったと報告されています。[1-3]

効果は年齢や流行するウイルスによって異なり、接種しても発症することがあります。

Q 特に接種を勧める人は？

高齢者、糖尿病や心臓・肺・腎臓などの持病がある方、免疫が低下している方、妊娠中の方。医療・介護職、高齢者・持病のある方・乳児に身近で接する方にも勧めます。健康な成人にも発症予防が期待できます。

Q ワクチンの効果は4～5か月で消える？

効果は徐々に弱まりますが、4～5か月で一律になくなるわけではありません。

ワクチンの効果は1～3ヶ月後が最大で、その後徐々に減弱するとされています。「早めに接種すると効果が持続するか心配」という声も聞きますが、流行が早ければ、早めに接種することのメリットのほうが大きいと思います。[2,4]

Q 接種してから、どのくらいで免疫がつく？

予防効果が期待できるまで、およそ2週間が目安です。接種開始を待つ間や接種後も、手洗い・換気・適切なマスクの着用などの感染対策を続けましょう。

Q 副反応の頻度や程度は？

注射部位の痛み・赤み・腫れが中心で、多くは軽く、通常は数日でおさまります。

3%程度の方は、37.5℃以上の発熱を認めると報告されています[5]

Q A型とB型の両方に効く？

両方に予防効果が期待できます。国内研究の20歳代では、発症をA型で56%、B型で49%減らしました。効果は年齢や流行する年によって異なります。[6]

Q 2026年のワクチンの株は？

A型（H1N1） A/スイス/6849/2025（IVR-278）

A型（H3N2） A/ミシガン/105/2025（SAN-049A）

B型（ビクトリア系統） B/東京/EIS13-175/2025

2026/27シーズンは、最近の流行に合わせて3株とも更新されました。

Q 他のワクチンとの接種間隔は？

他のワクチンとの間隔を空ける必要はありません。新型コロナ・肺炎球菌・带状疱疹などと、医師が必要と認めた場合は同じ日に接種できます。

インフルエンザ ワクチン

Q&A

効果・副反応・
接種のタイミング